

## いすゞの歩み、 それは商用車とディーゼルエンジンの 革新の歴史でもあります

いすゞは日本の自動車メーカーのパイオニアであり、初の国産ディーゼルエンジンの開発に着手した会社でもあります。以来、商用車とディーゼルエンジンの開発を両輪として、常に時代をリードするトラック(小型・中型・大型)、バス、ピックアップトラック等を市場にお届けしてきました。いまや、いすゞの技術・商品は国境を越えて広がり、グローバル・ブランドとして、更に存在感を高めようとしています。

### 国産ディーゼルエンジン第1号を開発

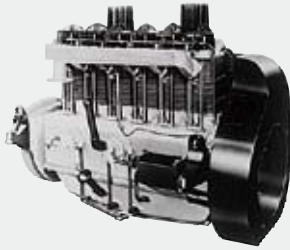
いすゞの歴史は1916年、(株)東京石川島造船所と東京瓦斯電気工業(株)が自動車製造を企画したことに始まります。1924年、(株)東京石川島造船所が英国の自動車メーカー、ウーズレー社と合併で第1号トラックを生産しました。その後、同社は自動車製造分門を独立させ、1933年にはダット自動車製造(株)を合併し、社名を自動車工業(株)に変更しました。そこで開発された日本初の空冷ディーゼルエンジンこそが、これまで何世代も続くいすゞのディーゼルエンジンの基礎となっています。

翌1934年、同社が開発した自動車を伊勢神宮の五十鈴川にちなんで「いすゞ」と命名。これが、いすゞの社名の由来です。更に1937年4月9日、自動車工業(株)は東京瓦斯電気工業(株)と合併し、社名を東京自動車工業(株)に変更しました。いすゞは現在、この日を創立記念日にしています。

社名を現在の「いすゞ自動車株式会社」としたのは、戦後の1949年(昭和24)のこと。国産トラックを次々と開発し、物資の輸送などを通して、戦後の復興に貢献しました。

### 「運ぶ」を支える革新的なハード、ソフトを提供

日本の小型トラックの代名詞「エルフ」は、1959年に誕生し、日本を含む世界21カ



国産ディーゼルエンジン第1号



小型トラック「エルフ」新モデル



中型トラック「フォーワード」新モデル



ピックアップトラック「ディーマックス」

国でシェア第1位を獲得しています。2006年、エルフはグローバル戦略車を目指し、フルモデルチェンジ。2007年にはCNG車、ディーゼルハイブリッド車もフルモデルチェンジを完了しました。

この年、中型トラック「フォーワード」も、エルフとの統合新商品として生まれ変わり、強力なラインアップが揃いました。

ピックアップトラック「ディーマックス」も、多くの市場でNo.1のポジションを獲得しています。

2004年、いすゞが発表した「みまもりくんオンラインサービス」は、運行状況をリアルタイムで把握し、ソフト面から省燃費・安全運転を支援するシステム。燃料費の高騰、省エネ法の改正など、輸送を取り巻く環境変化に対応し、2007年5月にフルモデルチェンジし、より効率的な運行を支援しています。

### グローバル市場へ躍進

いすゞは1949年に香港、1957年にタイへの輸出を開始したのを皮切りに、これまでに世界120カ国以上に商品を供給しています。

現地化にも積極的に取り組み、1985年に開設した中国工場をはじめ、2000年までにポーランド、米国でディーゼルエンジンの生産を開始しました。近年では、成長市場である中国、インド、ロシア、中近東などでの生産・販売に注力し、併せてASEAN諸国での機能強化を図っています。2007年から2008年にかけてはロシア、カナダ、コロンビアで新会社を設立し、マレーシア、インドネシア、トルコでは各拠点への出資比率を引上げ、生産・販売体制を強化しています。

いすゞは、商用車とディーゼルエンジンのグローバル・リーディング・カンパニーを目指し、先進の技術とサービスで海外拠点を拡大、強化していきます。